



佳作(えひめ洋紙株式会社賞)

山本好伸さんでした

山本 好伸

紙 ペン 色鉛筆

作品について

2020～2021年頃にスケッチブックに書かれた日記。その日の食べものやできごとなどが、ペンや色えんぴつで縦横無尽に書かれている。日記には自分の名前「山本好伸さんでした」と書かれている事が多い。

講評

積み重ねられた紙の束。両面に描かれた文字の渦に目眩さえ感じてしまう。

作者が通う福祉施設スタッフの話によると、これは「日記」だという。どうやら、施設内で体験した出来事と虚構とを織り交ぜて描いているようだ。四方八方に飛び散ったひとつひとつの言葉を解読することは至難の業だが、作者はこれらの内容を記録することに尽力を注いでいるように思えてしまう。頭の中から溢れ出てくる言葉は、いまこの瞬間に、紙に留めて置かなければ消え去ってしまうのだろう。本作と対峙する僕らの心がどこか落ち着かないのは、本作が人に見せることを前提としていない私的な「日記」であるからだ。(櫛野展正)